

コミュニティ形成にはたらく体育・スポーツの社会的機能  
・スポーツの社会的機能に関する研究  
——特に自治省モデルコミュニティを中心として——

鈴木 揚一（中京大学大学院体育学研究科社会体育学講座）

指導教授 梅村清弘

木村吉次

A Study on the Social Function of Sports as Community-Organization

Yoichi SUZUKI

Abstract

The purpose of this study is to examine the social function of sports which organize communities.

According to Matsubara, community was determined by 4 factors as; territoriality, social interaction, social resources, community sentiment.

In this study, community sentiment is taken as the most important factor to organize community and it would be clarify, how sports activities in community function for community sentiment.

Two communities were surueged; Takakura district in Kasugai city, Aichi pref. (urban community) and Tobu district in Atsumi gun Tahara cho, Aichi pref. (rural community); both disignated as “model community” by the Ministry of Home Affairs in 1973.

Male adults and female ones were included in the sample of the two districts.

In sampling stratified ramdom sampling was applied, and the sample size was 1000 in each district.

Term; The survey was conducted from September to October in 1982 in each community.

Questionnaire; it contained 5 elements (45 items) as follows; Social atribute (11 items), Community sentiment (6 items), Participation in events and activities of community (10 items), Interest in health and sports (6 items), Sports paticipation (12 items).

The method of analysis; we-feeling, role-feeling, dependency-feeling — these three factors determining community sentiment are asked first. Then the total score summed is meant as the strength of community sentiment, being divided into 3 groups. And Cross tabulation and  $X^2$  test with other items were conducted.

The findings of this analysis were as follows;

1) Community sentiment has especially an important relation to permanent residence element as social attribute.

2) As for the participation in community events or activities it has various opportunities for the communication among inhabitants in community. The experience of participating sports events or activities tended to increase the community sentiment in each community. That is, sports events or activities were considered as the method strengthen the community sentiment.

3) The inhabitants in each community often watch spectator sports, and this was found especially in the highly ranked group of community sentiments. It may seem that they are interested in sports.

4) Try to analysis the relationship between the community sentiment and voluntary participation in sports as individual; as they have higher community sentiment, they participated in sports more times now in Takakura community. And the members of sports clubs or sports lovers societies tend to be confined those only in the community. These facts manifest that sports activities as a media to strengthen community sentiment have more or less possibility in urban community just like Takakura. On the other hand, in rural community like Tobu, it is concluded that community sentiment of residents is strengthen not only through sports activities, but also through interchanges of their daily life.

## 1. 目的

本研究では、コミュニティにおいて展開されるスポーツ活動がコミュニティ形成にいかなる社会的機能を果たしているか明らかにしようとするものである。

特に松原のコミュニティを規定する、領域性 (territoriality)、社会的相互作用 (social interaction)、社会的資源 (social resources)、コミュニティ感情 (community sentiment) の四要件のうち、コミュニティ感情をコミュニティ形成の核としてとらえ、スポーツ活動がコミュニティ感情に対していかなる機能を果たしているのかを究明するものである。具体的には都市的地域と農村地域の二つのコミュニティをその対象として、そこでのスポーツ活動がコミュニティ感情に果たす機能を比較検討するものである。

## 2. 方法

### (1). 調査対象地

自治省の「コミュニティ (近隣社会) に関する

対策要綱」に基づいて、昭和48年に自治省よりモデル・コミュニティに指定された、愛知県春日井市高座地区 (都市的地域、以下高座地区) と同県渥美郡田原町東部地区 (農村地域、以下東部地区) を調査対象地とした。

### (2). 調査方法

調査対象者は、両地区に居住する20才以上の成人男女とした。

サンプリングの方法は、高座地区 3,276人、東部地区 2,137人の成人男女のうち、各地区で1,000人、合計 2,000人を無作為に抽出した。(地区別、性別、年齢別の層化三段抽出)

表1 標本数及び回収率

地区	春日井高座地区	田原東部地区	合計
対象標本数	1000	1000	2000
有効回収数	807	794	1601
回収率 (%)	80.7	79.4	80.1

調査の実施については、両地区とも昭和57年9月～10月にかけて、地区のコミュニティ協議会の役員を通じて調査用紙の配布及び回収を完了した。

有効回収標本数は両地区で、1,601であり、回収率は80.1%であった。(表1)

### (3). 調査内容

調査内容は、表2に示すようにコミュニティ感情とスポーツ活動の関係をみるために、社会的属性(11項目)、コミュニティ感情(6項目)、コミュニティ行事・活動への参加(10項目)、健康・スポーツへの関心(6項目)、スポーツ参加(12項目)の五要因(計45項目)について調査を実施した。

表2 調査内容

調査条件	調査項目
1. 社会的属性	①性 ②年齢 ③結婚 ④学歴 ⑤職業 ⑥年間所得 ⑦家族構成 ⑧住居形態 ⑨居住年数 ⑩出身地 ⑪勤務地
2. コミュニティ感情	①われわれ意識 (we-feeling) ②役割意識 (role-feeling) ③依存意識 (dependency-feeling)
3. コミュニティ行事・活動	①町民運動会 ②各種スポーツ大会 ③盆踊り ④防災活動 ⑤環境美化運動 ⑥交通安全運動 ⑦社会福祉活動 ⑧町民展・展示会 ⑨各種スポーツ同好会 ⑩文化・芸術的趣味の会
4. 健康・スポーツへの関心	①健康についての自己評価 ②体力についての自己評価 ③運動不足感 ④新聞のスポーツ欄の購読 ⑤スポーツ番組の視聴 ⑥スポーツ観戦
5. スポーツ参加	①過去のスポーツ経験 ②過去のスポーツ経験年数 ③現在のスポーツ実施 ④スポーツ実施回数 ⑤定期的実施 ⑥スポーツ・運動をする目的 ⑦スポーツの仲間 ⑧クラブ・同好会への加入 ⑨クラブ・同好会への加入後年数 ⑩クラブの派生基盤 ⑪クラブ員の範疇構成 ⑫クラブへの出席率

### (4). 分析方法

分析方法として、コミュニティ感情を規定する三要素である、われわれ意識 (we-feeling)、役割意識 (role-feeling)、依存意識 (dependency-feeling) に該当する質問項目を CMM 調査

(community moral and mobility) より抜粋した。本研究では、その合計得点をコミュニティ感情の強さとしてとらえ、高・中・低得点群の三群に分け、他項目とのクロス集計及び  $X^2$  検定を実施した。尚、本調査結果の計算処理は名古屋大学大型計算機 FACOM-M200 を、プログラムは SPSS を使用した。

### 3. 結果と考察

コミュニティ感情群と各項目との  $X^2$  検定の結果は表3に示すとおりである。

#### (1). 社会的属性

コミュニティ感情が高くなるに従い、年齢が高く、居住年数が長く、コミュニティ市町内の出身で、自宅を所有し、既婚者である者の占める割合が多くなることを示した。また、職業、勤務地においても地域に関連が深くなるほどコミュニティ感情の高得点群に占める割合が多くなることを示した。つまり、コミュニティ感情は住民の定住生活と深い関係をもっている。このことから、コミュニティ感情を高めるためには、コミュニティ形成において住民が定住を志向するような社会的資源(生活環境施設の体系)が確保されることが望ましいと考えられる。

#### (2). コミュニティ行事・活動への参加

コミュニティ内の住民相互のコミュニケーションを図る機会となるコミュニティ行事・活動への参加については、両地区ともスポーツの行事・活動を含めて全ての項目についてコミュニティ感情が高くなるほど参加経験をしたものが多くなる傾向を示した。しかしながら、高座地区は東部地区に比較して全体的な参加経験の割合は低く、各種スポーツ大会、各種クラブ・同好会についても低い参加経験を示した。しかし、町民運動会については、両地区とも高い参加経験を示した。つまり、町民運動会は地区の特性にかかわらずコミュニティ行事・活動に必要な不可欠なスポーツのプログラム・サービスと考えられる。以上のことから、スポーツの行事・活動もまた、地区の特性にかかわらずコミュニティ感情を育成するための一つの有効な手段として考えられる。

表3 コミュニティ感情群と各項目との関連

要因群	項目	高座地区		東部地区	
		X <sup>2</sup> 値	P	X <sup>2</sup> 値	P
1 社会的属性	1.性	3.749		5.521	
	2.年齢	91.793	***	74.049	***
	3.結婚	43.381	***	27.501	***
	4.学歴	40.129	***	22.018	
	5.職業	58.276	***	57.561	***
	6.年間所得	8.950		12.474	
	7.家族構成	3.956		16.157	*
	8.住居形態	23.940	*	26.956	***
	9.居住年数	50.023	***	67.911	***
	10.出身地	16.115	*	35.179	***
	11.勤務地	15.945	*	24.370	***
2 コミュニティ行事・活動	1.町民運動会	91.357	***	99.664	***
	2.各種スポーツ大会	16.285	***	24.709	***
	3.盆踊り	42.883	***	34.185	***
	4.防災活動	45.509	***	39.474	***
	5.環境美化活動	32.238	***	73.696	***
	6.交通安全通勤	45.738	***	63.785	***
	7.社会福祉活動	16.881	***	21.011	***
	8.町民展・展示会	39.171	***	26.946	***
	9.各種スポーツ同好会	17.131	***	30.456	***
	10.文化・芸術的趣味の会	44.548	***	33.584	***
3 健康・スポーツへの関心	1.健康についての自己評価	2.315		1.941	
	2.体力についての自己評価	5.646		6.142	
	3.運動不足感	7.032		19.240	***
	4.新聞のスポーツ欄の購読	5.897		8.269	
	5.スポーツ番組の視聴	4.830		6.225	
	6.スポーツ観戦	10.438	*	12.932	*
4 スポーツ参加	1.過去のスポーツ経験(クラブ)	6.115		7.115	
	2.過去のスポーツ経験年数	2.473		3.568	
	3.現在のスポーツ実施	17.086	***	1.931	
	4.スポーツ実施回数	12.263		9.785	
	5.定期的実施	4.809		0.437	
	6.スポーツ・運動をする目的	22.573	*	18.694	*
	7.スポーツの仲間	11.041		9.994	
	8.クラブ・同好会への加入	2.983		0.466	
	9.クラブ・同好会への加入後年数	10.251		5.379	
	10.クラブの派生基盤	23.421		15.522	
	11.クラブ員の範域構成	13.597	*	10.610	
	12.クラブへの出席率	13.610		10.105	

注) \*\*\* P&lt;0.05 \*\* P&lt;0.01 \*\*\*\* P&lt;0.001

## (3). 健康・スポーツへの関心

両地区とも、スポーツ観戦をよくするものつまり、スポーツに興味をもっていると推測されるものが、コミュニティ感情の高得点群に占る割合が多いことを示した。このことは高座地区では、スポーツの直接参加の関係において説明できるが東部地区においては明らかでない。また、東部地区で運動不足感をもたないものがコミュニティ感情の高得点群に占る割合が多いことを示した。このことは、東部地区の職業で日常の労働に身体活動を伴う農業従事者が多いためだと考えられる。

## (4). スポーツ参与

コミュニティ感情と個人の自主的・自発的なスポーツ活動への参与をみると、高座地区ではコミュニティ感情が高くなるほど現在スポーツを実施している。また、現在クラブ・同好会に加入しているもののうち、構成員がコミュニティ内に限られているほどコミュニティ感情の高得点群に占める割合が多くなることを示した。これらのことは高座地区のような住民の相互交流の少ない都市的地域においてはスポーツ活動がコミュニティ感情を育成するための媒体としての役割を果たしえる可能性をもつと考えられる。他方、東部地区のような、住民の相互交流が盛んな地域には、特にスポーツ活動だけがコミュニティ感情を育成するための媒体として取りあげられるまでもなく、住民の日常生活における様々な交流を通してコミュニティ感情が高められていると考えられる。

## 4. 結語

分析結果をもとに、スポーツのコミュニティ感情に果たす機能について検討してきた結果、いくつかの点について言及することができた。しかし、スポーツ活動を通してコミュニティ感情が育成される過程については明らかでない。本研究のテーマに即して考えた場合にはコミュニティ感情の推移をスポーツ活動参加との関係において、縦断的にとらえ分析することが今後の課題として残されている。